“K” LINE AI・デジタル戦略
“K” LINE AI Digital Strategy

Shipping Redefined with Data, AI & Digital

2026年11月4日



“K” LINE
川崎汽船株式会社

“K” LINE AI Digital Strategy

Shipping Redefined with Data, AI & Digital

データとAIで「統合運用力」に厚みと拡がりを持たせ、
「運ぶ」価値を高めステークホルダーに還元する。



取締役 代表執行役社長
CEO
五十嵐　武宣

海運を取り巻く環境は、大きな転換期にあります。
地政学リスクの高まりや通商政策の変化によってサプライチェーンの再構築が進み、脱炭素への対応も求められています。
同時に、AIやデジタル技術の進化は、私たちの事業や仕事のあり方を大きく変えようとしています。
こうした変化の中でも、私たちの使命は変わりません。お客様からお預かりした大切な貨物を、安全かつ確実に運ぶこと。
その使命を支えてきたのが、海務・海技、環境・技術、デジタルを束ねる「統合運用力」です。
データとAIの進化は、この「統合運用力」に厚みと拡がりを与える大きな可能性をもたらしています。
その第一歩として、私たちは全社横断のデータ基盤の構築を進めています。
海と陸、社内外にある情報や知見をつなぎ、必要なデータを蓄積・活用できる環境を整えることで、人とAIが協働し、
予測や判断、連携をより高度化していきます。
そして、この基盤の上で、まずは安全・品質・環境性能をさらに高め、「安全・確実に運ぶ」という私たちの中核価値を進化させます。
さらにその先には、進化した「統合運用力」で、お客様のサプライチェーンや社会の課題解決へと価値を広げていく。
それが私たちの目指す「新しい海運」です。
現場で培った「統合運用力」をデータとAIでさらに磨き、安全・確実な輸送を、その先の新しい価値へ。
私は、“K” LINEならではの強みを次の時代につなぎ、お客様と社会から選ばれ続ける存在を目指して、この変革を進めていきます。

©Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.

未来を描く「7つのテーマ」～データドリブンの先にある価値～

海運知見・データ・技術力を融合し、グローバルに信頼され、人々の豊かな暮らしを支える価値を創出する。

“K” LINEグループは、海上輸送を中核に培ってきた「統合運用力」にデータとAIでさらに厚みと拡がりを持たせます。
安全・確実な輸送という物流インフラ企業の使命を果たしながら、サプライチェーンの最適化と脱炭素という社会課題の解決に貢献します。

経営管理・意思決定・組織・業務遂行の進化

投資家・株主
収益成長・資本効率
事業変動耐性

海陸役職員
安全性向上
高付加価値業務

海事パートナー
情報共有・共通理解
価値共創

意思決定
変化を先読みし、速く正しく決める
市況・規制・地経学リスクをデータで捉え、船隊構成や投資の判断をAIが支えます。

現場変革
現場が自ら課題を見つけ、変革を自走
海陸の現場が人とAIの協働で業務を改善し、変革を継続します。

事業収益力
「統合運用力」で新しいビジネスモデルをつくる
データとAIで厚みと拡がりを増した「統合運用力」と当社ならではの営業力で新たなソリューションをつくりだします。

お客様・社会への価値創出

顧客価値
お客様と共にサプライチェーンを最適化
海上輸送にとどまらず、物流最適化や脱炭素の課題をお客様と共に解決します。

脱炭素
お客様・社会の脱炭素に貢献
運航・環境データを可視化・予測・最適化し、低炭素輸送の選択と排出量把握を支援します。

安全・品質・環境
安全・品質・環境性能で、信頼を価値に変える
船舶を戦略資産と捉え、データとAIで性能を高め続け、確実な輸送への信頼を顧客価値と収益性に転換します。

接続・連携
海上・陸上・お客様・パートナーがつながる
船舶、海陸各部門、お客様、船主、船舶管理、港湾ターミナル等が、必要な情報を必要なタイミングで共有します。

お客様
サプライチェーン
最適化・価値共創

社会
安全・安定輸送
環境負荷低減

©Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.

今を動かす「5つの視点」～私たちがなすべきこと～

中期経営計画 2027-2031
Shipping Redefined.
新しい海運を、つくる。

“K” LINEの強みである、現場起点の「統合運用力」を活かし、強みが活かせる領域で、事業 と機能を掛け合わせることで提供価値を高め、競争力と収益性の向上を実現する

事業戦略 | ポートフォリオ | 各事業の戦い方 | 機能戦略 | 海務・海技 | 環境・技術 | AI・デジタル

“K” LINE AI・デジタル戦略 データとAIで「統合運用力」に厚みと拡がりを持たせ、人とAIの協働で「運ぶ」価値を高め、ステークホルダーに還元する

事業領域別施策

それぞれの現場で
具体的な施策を実行し、
新たな価値を創出



DX施策を支える基盤

人・データ・セキュリティを
一体で強化し
持続的な変革を実現



海運の新しい価値を提供（陸上 × 海上）

1 陸上のDX

- 業務へのAI組込み 定型業務のミニマイズ
- 海・陸・港湾・顧客のデータ連携
- 環境変化への即応 低・脱炭素運航の支援
- 最適配船・経済運航 課題解決提案

海陸の連携による価値創出

2 海上のDX

- 最適航路選定
- 船上IT環境改善
- 脱炭素運航
- 船上業務再設計
- 人的依存低減 AI・ロボティクス・遠隔支援
- 予兆保全 異常検知
- 航海中 貨物監視

DXを可能とするケイパビリティ（デジタル人材基盤 × データ・AI基盤 × セキュリティ基盤）

4 人材のDX

データを正しく
「あつめる」「ためる」「つかう」
ことが出来る
人材層の厚みを増す

ガバナンス・人材で連携

3 データのDX

全社横断のデータ基盤
あらゆる情報を
データ化・共通基盤化
AIが安全・正確に
稼働する環境を整備
データガバナンス強化

人とAIの協働拡大
AI活用が前提
・経営課題解決
・事業収益力強化
・業務の価値向上
AIガバナンス強化

AI、データ、セキュリティガバナンスで連携

5 DXを支えるセキュリティ

高度で堅牢な防御
競争力と信頼の基盤

データ駆動型海運会社を実現する土台

©Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.

未来へ進む「３つのステージ」～基盤強化から価値創造へ～

基盤強化（人材/データ/セキュリティ）と利益成長（陸上/海上/データ・AI活用）

利益成長	STAGE1【進行中】 DX基盤整備の完遂	STAGE2【2027-2031中期経営計画期間】 DXによるコアバリューの磨き上げ	STAGE3【＋ Beyond】 DXによる新たな価値創造
陸上のDX	データ駆動型事業運営の基盤構築 全社データ基盤を構築 データ駆動型経営を推進	人とAIによる意思決定高度化 データで人とAIが協働 変化を早く正確に把握 データとAIで「統合運用力」を高め、 海運の価値を拡げ社会課題に貢献	海運の価値を拡大
Data Driven ＆ AI Transformation（AX）			実装システムの高度化
海上のDX	船上ITインフラの飛躍的向上 船上IT環境刷新 運航データのリアルタイム活用加速	海上DX技術の確立と革新 予兆保全・遠隔支援・AI活用で 船上業務の生産性向上 次世代の自律運航に繋がる 新技術の開発	差別化による 競争力強化

基盤強化

人材のDX			データのDX		DXを支えるセキュリティ		
育成	推進	パートナーシップ	データ基盤	AI活用	人・文化	組織	技術
海運知見と データ・AI活用力を 併せ持つ人材を育成	経営主導・部門横断・ 現場起点の3つの軸で、 各組織のDX人材が 施策を具体化	ステークホルダー との協働で、 知見を共有し、 変革を加速	全社横断の データ共通基盤構築と データガバナンス強化	データとAIで知見と 人材の力を拡げる AIガバナンスを強化	教育・啓発・ インシデント訓練で セキュリティ ファースト文化を グローバルに醸成	グループ全体で 責任と役割を明確化 サイバーインシデント 対応を強化	セキュリティ対策を 常にアップデートし 情報セキュリティ 監視体制を高度化

©Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.

1 陸上のDX

確かな安全も、豊富なデータも、届いて初めて、意味を持つ。
陸上のDXが目指す場所は、その先だ。
現場で磨いた「統合運用力」で、お客様一人ひとりの答えを、共に描いていく。
海運の枠を飛び出し、社会の当たり前を書き換える挑戦へ。



データ駆動型事業運営の基盤構築

全社横断データ基盤を整え、業務の一部にAIを組み込む

ポイント データ活用の共通基盤整備／AI活用の業務展開

効果 業務効率向上／付加価値業務へのシフト



海運の新たな価値創出

データとAIで「統合運用力」に拡がりを持たせ、
お客様に課題解決を提案

ポイント お客様・社会の課題解決／提案力・競争力の強化

効果 最適配船・経済運航／収益力強化

STAGE 1

STAGE 2

STAGE 3



人とAIによる意思決定高度化

海・陸・港湾・顧客のデータを統合し、人とAIで経営判断を迅速化

ポイント 社内外・海陸のデータ連携

効果 環境変化への即応力強化／低・脱炭素・安定輸送

©Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.

2 海上のDX

波と風を読む力、異音を聞き分ける耳、最適な航路の判断。
長年の経験がつくってきたスキルを、海上のDXはさらに研ぎ澄ましていく。
経験と技術が重なり合うところに、確かな安全が生まれる。
その積み重ねの先にあるのは「選ばれ続ける“K” LINE」という信頼だ。



船上ITインフラの飛躍的向上

船上IT環境を陸上と同じ水準に整え、
AI・デジタルを活用した船上業務の再設計に着手

ポイント 船上のデジタル活用環境整備／
業務プロセスと役割分担の見直し

効果 船上業務の再設計・生産性向上

STAGE 1

STAGE 2

STAGE 3



実装システムの高度化

風力の活用、自律運航船など先端技術の実装、
蓄積された運航データを活用して安全・品質・環境性能を
継続的に向上

ポイント 最新技術による安全・品質・環境の継続的向上

効果 人的依存低減／AI・ロボティクス・
遠隔支援／最適航路選定



海上DX技術の確立

運航データをリアルタイムに連携し、現場知見を基に予兆保全や遠隔支援を実現

ポイント 現場知見とデータを組み合わせた支援の定着

効果 脱炭素運航／予兆保全・異常検知／航海中貨物監視

©Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.

3 データのDX

情報は、とどまっているだけでは、力にならない。
集め、整え、必要なところへ届けて、初めて意味を持つ。
信頼できるデータを、グループの枠を越えてステークホルダーと共有し、価値へと変えていく。
その先に見えているのは、「データ駆動型海運会社」という未来の姿だ。

- データ駆動型海運会社への変革に向け、社内外・海陸の情報・知見・業務を連携し、顧客価値と企業価値を高める
- 全社統合データ基盤を構築し、3つの柱（経営課題解決／業務の価値向上／事業収益力強化）で企業価値を向上。データガバナンスを確立しデータ品質を担保

Data Driven & AI Transformation（AX）

経営課題解決
経営・事業のデータを統合し、
AIで先読みと迅速な意思決定を支える

業務の価値向上
業務を極力効率化し、強みの先鋭化や営業といった
付加価値の高い業務に集中できる環境を作る

事業収益力強化
顧客/パートナー/仕入先と関係性を深めるとともに、
環境・安全運航などの強みを活かし事業収益力を向上



GHG排出
非構造化データ
サステナ・非財務
船舶・船隊・安全管理
財務・収支管理
外部データ活用
顧客・契約・案件管理

×

データガバナンス 信頼できるデータを、ルールに基づき安心・迅速に活用

見つかる・分かる	信頼して使える	適切かつ安全に使える	
所在・意味の把握 何が・どこにあるか	所在・意味の把握 正確・完全・一貫	適法性の担保	アクセス権限の適正化
		管理責任の明確化	継続的な監視・改善

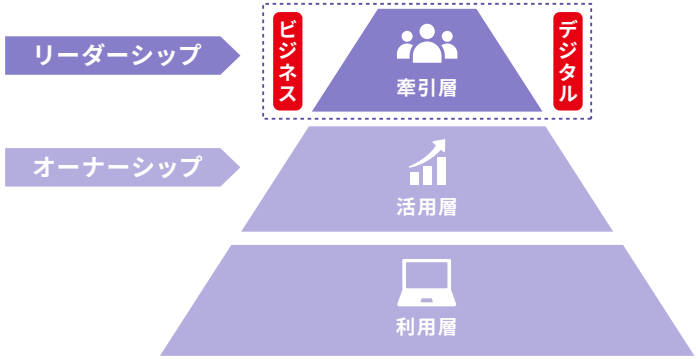
©Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.

4 人材のDX

どれほど優れた仕組みも、使う人と繋げる人がいなければ、動き出さない。
だから、DXは人を育てることから始まる。
現場の気づきが声になり、その声が経営の意志と重なるとき、組織は動き出す。
部門も、国境も越えて育つ一人ひとりこそが、“K” LINEグループという船を前に進める力そのものだ。

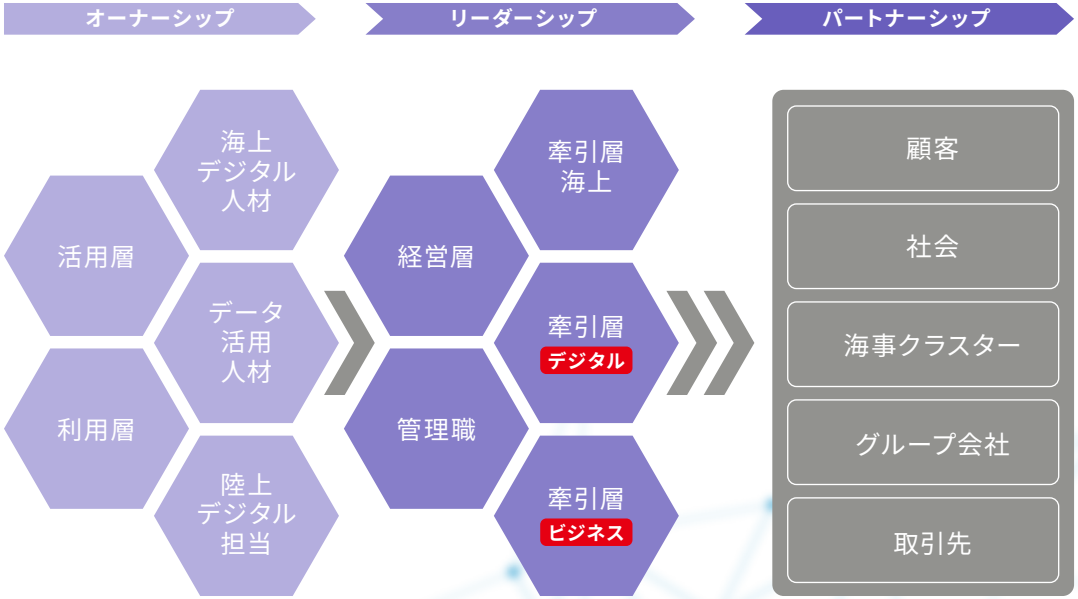
- 海陸・グループ全体で事業変革と価値創出を担うDX人材・DX組織を実現
- DX人材を「育成中心」から「成果創出中心」へ転換し、陸上に加え海上DX人材を創出
- データ活用推進担当を育成・配置し、データ駆動型海運会社の真価を発揮

DX人材育成プログラム



継続して裾野を拡大しつつ、牽引層が先導

DX人材育成の広がり



©Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.

5 DXを支えるセキュリティ

ひとつの綻びが、海と陸の営みを止めかねない時代。
守りを固めることは、挑戦をためらうことではない。
安心してデータとAIを使える土台が、変革を前へ進める。
グループ全員で、「信頼」という航路を守り抜く。

サイバーセキュリティを強化 → データ・AIを安全かつ安心して活用 → 成長につながる事業変革を着実に推進

3つの領域からサイバーセキュリティを継続的に強化

組織

- グループ横断で活動するサイバーセキュリティ統括組織（KL-CSIRT）を中核として監視・対応体制を強化
- 平時・有事のインシデント対応体制を強化 国際基準・認証への対応
- サプライチェーンを含むリスク管理体制を強化

技術

- グローバル認証基盤による ID・アクセス管理の高度化
- ゼロトラストに基づくグローバルでの防御・監視能力の向上
- 船上環境や次世代デジタル技術に対応したセキュリティの強化

人・文化

- 情報安全確保支援士などのサイバーセキュリティ専門人材の確保と育成
- AI時代に対応した教育・啓発・訓練
- 全員がセキュリティを意識して判断・行動する文化の醸成

取組の評価・脅威の把握　　見直し・高度化

継続的高度化

外部環境・脅威動向の継続的な把握	AIを含む新技術・新たな脅威への対応	KPIを活用した評価・改善	ガバナンス・技術・教育の継続的な見直し

©Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.

“K” LINE AI・デジタル戦略の推進管理【ガバナンス体制とKPI】

推進組織【ガバナンス】

現場起点で課題を発掘し、デジタル部門との協働により解決策の具体化・実装を推進する。
経営層を含むデジタル会議では、企業価値向上に寄与する案件を管理・監督し、その進捗と成果を経営会議・取締役会へ報告する。

統合戦略会議体
- 環境・技術会議
- サステナビリティ推進会議
- ジオエコノミクス会議

デジタル会議
議長：CDIO（AI・デジタル戦略責任者）
メンバー：ユニット統括役員

経営会議
重要案件の審議・意思決定

取締役会
経営レベルでの監督・承認

01 案件創出	02 選定	03 決定	04 実装	05 評価・横展開
現場起点	デジタル推進デスク	デジタル会議	現場×デジタル部門	デジタル会議
対話・具体化	評価・優先度／案件管理	推進方針／投資判断	伴走支援／実行・進捗管理	部門横断／成果共有
陸上部門 海上部門	デジタル部門		陸上部門 海上部門 デジタル部門	

管理指標【KPI】

DXを可能とするケイパビリティを強化し、事業部門とデジタル部門の協働により、現場課題の解決につながる施策を実装する。
デジタル技術を活用した生産性向上と業務変革を通じ、中期経営計画が掲げる利益成長・資本効率改善に貢献する。

DX基盤KPI	変革実装KPI	事業成果	企業価値目標KPI
人材のDX：DX活用人材：170名※1 全社牽引人材：10名※1	定型定例業務時間削減：20%※1※2	収益力向上 人的資本最大化	中期経営計画 ROE：15%以上 PBR：1倍超
データのDX：AI Ready データ：80%※1	新規DX実装案件数：10件 2031年度末までに実装を完了し、下記のいずれかの効果を確認する ●収益 ●顧客価値 ●生産性 ●安全・船舶品質管理 ●環境		
セキュリティ：重大インシデント：0件			

©Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.

※1 2031年度末時点　※2 対2026年比での時間再配分

100年、私たちは海の上にいた

これからも、それは変わらない

ただ、見える景色が変わる

水平線の先まで



次の100年をつくる

Shipping Redefined with Data, AI & Digital

©Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.


"K" LINE
川崎汽船株式会社